



学力向上を図るため調査結果（概要）のお知らせ

今年度の調査結果をお知らせします。

本結果をもとに、授業を改善していくとともに、来年度に向けて、どの場面において今まで学習してきた内容を生かすことができるのかを考え、指導計画を作成していきます。

1 全国学力・学習状況調査 【対象：第6学年】

実施日：令和8年4月23日（木）

（1）国語科【学習指導要領の領域の内容】 平均正答率（％）

	言葉の特徴 や使い方に 関する事項	情報の扱い 方に関する 事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	国語全体
本 校	76.4	65.9	72.6	53.3	80.8	71
東京都	70.4	56.7	70.0	50.4	68.8	65
全 国	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9	60.9

全ての領域の全平均正答率において、都平均、全国平均を上回りました。

「言葉の特徴や使い方にに関する事項」では、正答率で都平均を6.0ポイント、全国平均を9.6ポイント、「情報の扱い方にに関する事項」では、都平均を9.2ポイント、全国平均を13.6ポイント上回りました。「話すこと・聞くこと」では、都平均を2.6ポイント、全国平均は6.8ポイント上回りました。「書くこと」では、都平均を2.9ポイント、全国平均を7.6ポイント上回りました。「読むこと」では、都平均を12.0ポイント、全国平均を14.9ポイント上回りました。

しかし、「読むこと」の文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる力については、さらなる向上が期待されます。今後も、日常の授業において目的に応じて文章を読み比べたり、必要な情報を整理・活用したりする学習を充実させるとともに、自分の考えを、根拠を基に分かりやすく書いたり伝えたりする活動を継続して行います。また、語彙の充実や言葉の働きへの理解を深める指導を積み重ね、言語能力のさらなる育成を図っていきます。

（2）算数科【学習指導要領の領域の内容】 平均正答率（％）

	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	算数全体
本 校	72.7	71.7	89.7	59.2	56.8	69
東京都	68.0	63.4	82.9	49.9	53.9	63
全 国	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6	56.4

全ての領域の全平均正答率において、都平均、全国平均を上回りました。

「数と計算」領域では、都平均を4.7ポイント、全国平均を11.6ポイント、「図形」領域では、都平均を8.3ポイント、全国平均を16.4ポイント上回りました。さらに、「測定」領域では、都平均を6.8ポイント、全国平均を11.6ポイント、「変化と関係」領域では、都平均を9.3ポイント、全国平均を18.1ポイント、「データの活用」領域では、都平均を2.9ポイント、全国平均では8.2ポイント上回りました。

しかし、二次元の表から条件に合う数を読み取る問題では、さらなる力の向上が期待されます。今後も、既習内容を活用する場面を意図的に設定するとともに、自分の考えを図や式、言葉を用いて説明する活動を積み重ね、思考力・判断力・表現力の一層の育成を図っていきます。

(3) 意識調査（調査結果の一部）

学習面・生活面の意識調査も行いました。その結果から本校の教育活動の重点に係るものを抜粋してお知らせします。

○学校に行くのは楽しいと思いますか。

	①当てはまる	② どちらかといえば 当てはまる	③どちらかといえば 当てはまらない	④当てはまらない
開三小	48.6	40.0	6.7	4.8

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

	①	②	③	④
開三小	65.7	28.6	4.8	1.0

本校では、「子供と教職員が活力に満ち、満足できる学校」を目指す学校像として掲げています。88%の児童が学校に行くことを肯定的に捉えており、94%の児童が普段の生活に幸せを感じていることが分かります。いずれも都平均、全国平均を上回っており、学校、家庭での生活に概ね満足していることが表れています。引き続き、児童が満足できる学校にしていくとともに、子供たちの困り感や悩みに敏感に気づき、学校全体で対応していけるようにします。

○人が困っているときは、進んで助けていますか。

	①	②	③	④
開三小	41.9	46.7	11.4	0.0

肯定的な回答は高い水準を維持しており、教育目標である「思いやりのある子供」が多く育っていることが分かります。一方「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童も11%いました。道徳の授業や日々の学習を通して、相手の状況や気持ちを考えて、思いやりをもとうとする心情を育てていきます。また、児童の言動を教師が価値付けることで、自分の行動に自信がもてるように励ましていきます。

○分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

	①できている	②どちらかといえば、できている	③どちらかといえば、できていない	④できていない
開三小	42.9	42.9	11.4	1.9

85%の児童が自ら考えて学習に向かおうとしていると考えられます。これは、都平均、全国平均よりも10%以上高い結果であり、目指す学校像の一つである「学ぶ意欲を高め、確かな学力が身に付く」ことが定着しつつあることがうかがえます。高学年で自分の学び方を選択できるように、下学年のうちから学び方を考える力が付くように指導していきます。

○学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

	①2時間以上	②1時間以上、2時間より少ない	③30分以上、1時間より少ない	④10分以上、30分より少ない	⑤10分より少ない	⑥全くしない	⑦無回答
開三小	9.5	7.6	11.4	22.9	9.5	19.0	20.0

全国的に低い数値ですが、本校も「全く読書をしない」と回答した児童が19%いました。図書館司書、図書ボランティアと連携し、身近に本のある環境づくりをしたり、読書の時間を確保したりして、読書への興味を高めていきます。

○あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか。

	①そう思う	②どちらかといえば、そう思う	③どちらかといえば、そう思わない	④そう思わない	⑤無回答
開三小	61.0	27.6	5.7	0.0	5.7

タブレットを使って調べることの他に、文書やプレゼンテーション資料を作成することについても高い水準の回答が得られています。タブレットを使うことを目的にするのではなく、よりよい表現や学習の一助になることを目的として使用を推進するとともに、併せて情報モラル教育も行っていきます。